

# 柔道部

設立	1956年9月
部長	佐藤 哲哉(物理情報工学科)
現在の部員数	15人(2013年4月現在)
OB/OG 会代表者	中嶋 宣男
OB/OG 会会員数	約300人
URL	<a href="http://www.keio-riko-judo.com/">http://www.keio-riko-judo.com/</a>

## 慶應義塾の柔道

1877年(明治10年)福澤先生指示のもと、幼稚舎長和田義郎の指導にて柔術訓練が開始されたことが慶應義塾の柔道の始まりと記されている(慶應義塾体育會柔道部部史より)。

1939年には藤原工業大学が開校となり、その後、柔道を志す藤原工大の有志が集まり、蝮谷の慶應の柔道場を借りて練習をはじめたのが理工学部柔道部の始まりとされている。柔道部名誉部長故辻岡康(慶應義塾大学名誉教授)が入学した1944年頃は、戦争が激しさを増し、練習もままならない時代に入っていた。1945年の終戦とともに、学生武道禁止の指令が出され、体育会柔道部も解散することになった。以後1950年に復活が許されるまで学生柔道は活動できなかった。

## 工学部柔道部の創部

1949年3月小金井校舎(横河電機工場及び隣接地)に工学部が移転した。1950年に学生柔道活動が許可され、体育会柔道部も正式に復帰した。当時、体育会柔道部に所属する工学部学生は、1年生のときは三田の綱町道場へ通い稽古に励んだ。2年生になり小金井に進級してからも綱町道場へ通う日々が続いていた。授業と稽古の両立が難しい中、稽古をしたい気持ちを持つ柔道経験者や2・3年生の10人余りのメンバーの発案により、1956年9月に工学部柔道部が創部された。部長に辻岡康(機械工学科専任講師)、顧問には荒井浜吉兼任講師(本務東京大学工学部機械工学科教授)が就任し、熱き志を持つメンバーでスタートした。

当初は稽古する道場を持っておらず、また良き指導者もいなかった。近隣の三鷹警察道場へ稽古



創部の頃の稽古風景



第17期(1959年)主要部員勢揃い

に出向き、力まかせの警察官との乱取り練習に励む日々が続き、自分達だけの道場を持つ必要性を痛感した時期だった。

校門を出た敷地外の畑の中にあつた自動車工学研究会の倉庫とガレージのような建物で部員全員が自らの手でシャベル、トンカチ、鋸を持ち、整地、基礎造り、木材の床板張りを行い、先輩、教員、関係者、部員の拠出金で資材を購入し、念願の53畳敷き道場開きを迎えることができた。みすばらしい、雨漏りのする道場だったが自分達だけの道場ができたとの誇りを持ち、稽古に励む日々が続いた。



「慶應義塾 工学部柔道部」の道場看板 1963年

### 小金井時代の苦勞

工学部柔道部は、自動車部の機械油の臭いと近くの芝畑にまかれた人糞の臭いが交じり合って漂う環境の中、部員総出の手造り道場で活気溢れる稽古を積んでいた。稽古中に畳が動き、畳と畳の間に足を取られて捻挫をしたり、大きく投げられると、解体されたエンジンなど自動車部品にぶつかりそうになるなど危ない状態だった。寝技で汗まみれになり、口に絡んだものを取り出して見ると、芝にまかれた肥から風で飛んできた新聞紙の切れ端だった等々、今から思えば嘘のような稽古環境でもあった。体育会柔道部にも所属していた部員もあり、小金井、三田綱町、日吉の道場にも出かけ、稽古に励んでいた。

1963年、体育会柔道部清水正一師範にお願いして「慶應義塾工学部 柔道部」の非常に立派な看板を書いていただき、道場の入り口の柱に掲げた。部員一同、感激と新たな柔道への思いに浸った瞬間であった。

工学部柔道部は、小さくマイナーな集団にも拘わらず、清水師範や、体育会の友田、永田、小寺らの熱心な指導を仰ぐなど、多くの方々に大変お



1963年7月 荒井溪吉顧問と山中湖合宿所にて

世話になり、工学部柔道部としての活動を続けることができた。

### 関東理工科学生柔道優勝大会

工学部柔道部創部からまもなく1960年6月に第1回関東理工科学生柔道優勝大会が開催され、出場校は、工学院大学、芝浦工業大学、武蔵工業大学、東京理科大学、日本大学理工学部、千葉工業大学、東海大学工学部、東京電機大学、電気通信大学、東京工業大学、そして慶應義塾大学工学部の計11校であった。第1回大会は日本大学理工学部が優勝、芝浦工業大学が準優勝している。その後、大会の規模は大きくなり、第9回大会からは、東日本理工科学生柔道優勝大会、第13回大会からは、現在の全日本理工科学生柔道優勝大会と大会名称が変わっている。

1963年には、第4回関東理工科学生柔道優勝大会に向け、体育会の望月、中山らの参加を得て、工学部道場にて強化合宿を実施した。その結果、同大会で日大工学部、芝浦工大について第3位入賞を果たした。個人でも日大の巨漢・田中武人を含む3人の優秀選手の1人として、わが部の鈴木正慶(管理工学科)が表彰された。

山中湖の合宿には、当時高分子学会会長であった荒井溪吉非常勤講師が、東レの西部、坪内という全日本級の選手を引き連れ、叱咤激励に来られた。出稽古も練習試合を兼ね積極的に行い、柴山教授率いる一橋大や東大、朝鮮大、農工大にもよく出かけた。

### 矢上への移転〈節目の第30期〉

1971年10月に機械工学科と応用化学科から矢上へ移転が開始され、翌年の3月に全学科の移転が完了し、矢上での活動がスタートした。第30期が小金井で授業を受けた最後の工学部生となった。また、1～2年生の頃には学生運動がピークで、「安田講堂事件」などおこり、授業が学生集会になってしまうことが頻繁にあった。そうした中で小金井道場に通り、稽古をしていた。

1969年は人類が初めて月に立った時代でもあるが、部員手造りの小金井道場は雨漏れで濡れた破れ畳からきのこが生え、かび臭い状況であった。広さも対抗試合には狭く、春秋の対早稲田理工学部戦は三田の綱町道場などを借りて行っていた。

夏合宿前には3日間の小金井合宿で備えたが、8月中旬の山中湖体育会山荘での1週間夏合宿はかなりの練習量であった。合宿2日目あたりで筋肉が固くなり苦痛を乗り越えて練習を重ねた。4日目の中日は練習が無く、代わりに山中湖一周マラソンや、山中湖対岸往復ボート漕ぎをして厳しい合宿の中のひとときを楽しむこともできた。春合宿は3月下旬に日吉の柔道場で1週間行い、体育会、高校、医学部柔道部の合宿と一緒にすることもあった。また、体育会と合同で合宿していたときには、天理大柔道部の参加があり、天理大の強かったことに目を見張った。

### 矢上移転後の練習

矢上移転に伴い、柔道の練習環境も一変した。小金井道場のように畳がずれることもなく、スプリングのきいた立派な日吉の柔道場で日々練習



日吉柔道場



創部50周年記念式典 辻岡康柔道部名誉部長



創部50周年記念式典(創想館)

できるようになった。しかし、日吉では体育会柔道部と一緒に稽古することになり、柔道未経験のメンバーにとっては、とても厳しい環境でもあった。ただし、土曜日だけは道場を専有で使用できる存分練習ができた。

### 創部50周年記念式典

1956年創部の柔道部は、2006年4月22日創部50周年を迎え、矢上に新しく建てられた創想館で盛大に記念式典が挙行された。稲崎一郎理工学部長をはじめ、三田柔友会からは、水谷英男名誉会長ならびに渡辺明治会長より祝辞を頂戴した。

最後に一同で若き血を斉唱し、理工学部柔道部の活躍ひいては慶應義塾柔道のさらなる発展を祈念した。

### OB/OG 会設立



2007年11月24日 OB/OG会設立(日吉)

正式組織ではなかったが、OBは折々に会合を持ち現役支援を行ってきた。創部50周年を契機に、今後永続的にかつ定期的に活動できる組織が必要との認識で一致し、正式にOB/OG会発足の検討が始まった。

矢上キャンパスに移って以降、現役の活動は、理工学部学生に文科系学生も加わり理工学部体育会柔道部として活躍している現状である。

これらさまざまな状況変化に柔軟に対応していくには、我々の団体としての意思決定や運営をルール化、システム化していく必要があった。現役支援やOB/OGの親睦がさらに活性化するようにしたいとの設立の趣旨が理解され、2007年11月14日慶應義塾大学理工学部体育会柔道部OB/OG会が正式に設立された。

### 全日本理工科学生柔道優勝大会

2009年度全日本理工科学生柔道優勝大会にて、理工学部体育会柔道部と慶應義塾体育会柔道部の合同チームは見事優勝を勝ち取った。試合は5人戦であり、決勝では理工学部柔道部から2名、体育会柔道部から3名が出場し、副将の理工学部柔道部細谷拓実選手(機械工学科)が勝利を勝ち取り優勝を決めた。

第46回大会においても慶應は優勝を成し遂げているが、そのときは選手全員が慶應義塾体育会柔道部部員だった。しかし今回は、1回戦から決勝に至るまでの全ての試合が合同チームで見事優勝の栄誉を手にした。一番強く印象に残ってい



2009年 第50回記念  
全日本理工科学生柔道優勝大会



第50回記念大会 優勝メンバー



第51回大会 準優勝メンバー

ることは、出場選手よりも会場の方が慶應の優勝に驚いていたことであった。普段の練習は別々だが、ペンマークを胸に付けているだけで一体感が瞬時に生まれ、慶應義塾の柔道を見ることができ、優勝を勝ち取ったと同時にペンマークの団結

の強さを改めて実感した。

第 50 回記念大会での優勝を祝うべく、体育会柔道部の三田柔友会と理工学部 OB・OG 会合同で日吉にて盛大に祝賀会を開催した。慶應義塾柔道の記念すべき祝賀会となった。

翌年(第 51 回)も体育会との合同チームで出場した。結果は残念ながら準優勝で終わったが、慶應義塾の柔道がしっかりと受け継がれ現在に至っている。

## 9 大学対抗柔道大会

毎年 7 月と 12 月に 9 大学対抗柔道大会が行われており、上位入賞を目指し大会に参加している。2012 年 12 月度の大会では第 3 位に入った。ここ数年間は表彰台から遠ざかっているが、心身共に充実した練習の成果がここにきて表れている。

## 早慶戦柔道大会

しばらく途絶えていた早慶戦を 2011 年度から再開している。2011 年は連合三田会大会の当日、日吉柔道場にて開催され、2012 年は講道館にて開催された。両大会とも早稲田に惜しくも敗れてしまった。2013 年度こそは勝利を得られるよう日々稽古に励んでいる。

## 現在の活動状況

現在は毎週水金の 18 時 30 分から矢上体育館で練習を行っている。日々の練習には日吉、矢上の部員はもちろんのこと、三田や湘南藤沢からも練習に駆けつけ、少ない参加者ではあるが、質の高い、気持ちのこもった練習を行っている。近年は、月曜日に体育会柔道部の活動がないことから、日吉体育館の柔道場で矢上よりも充実した練習を行なっている。

## 合宿の状況

合宿は年に 2 回実施している。ゴールデンウィークに新入部員を交えた春合宿と、9 月連休の夏合宿である。両合宿とも、いつも以上に気合の入った練習を行いつつ、部員同士や合宿に参加される OB との交流を深めるさまざまなイベントを行



選手宣誓 慶應：森田君、早稲田：黒木君  
2012 年 11 月 24 日 早慶戦(講道館にて)



2012 年 5 月 春合宿(群馬県) OB 親子で参加  
っている。

現在の柔道部員は、「己の肉体と精神の強化」「仲間との信頼関係の構築」を第一目的として日々の稽古に励んでいる。時代により柔道が置かれる環境や、ルールや技の改定に見られるような柔道自体の変化を拒むことはできないが、柔道を通して学べることは、いつの時代でも、どんな場所でも変わりがない。柔道を通じて己と、そして仲間と正直に向き合う。ただ肉体的に強くなるだけではなく、精神的にも強くなれる場所。それが柔道部である。

連綿と続く柔道部の歴史を絶やすことのないよう、現役柔道部員には日々精進し、理工学部体育会柔道部の精神を次の世代へ引き継いでゆくことを期待する。

柔道部年史

1956年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2・3年生の有志、小金井に創部を目指す</li> <li>・工学部（現理工学部）体育会柔道部創部（9月）</li> <li>・三鷹警察道場に出稽古、警察官と乱取り練習</li> </ul>	1981年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・春 慶早戦、12人戦の勝ち抜きで、8人残して早稲田勝ち</li> <li>・秋 慶早戦、14人戦の勝ち抜きで、4人残して 早稲田勝ち</li> <li>・合宿は長野県の閑静荘</li> </ul>
1957年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道場完成（6月）工学部倉庫内に53畳の手作り道場</li> <li>・清水師範訪問：特別強化指導</li> </ul>	1982年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第23回全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・慶早戦</li> <li>・9月に長野県小海の閑静荘で夏合宿</li> </ul>
1958年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期：山中湖合宿</li> <li>・冬期：工学部柔道場で合宿</li> </ul>	1983年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第24回全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・慶早戦</li> <li>・体育会慶早戦（10月30日）に、理工学部43期卒山内剛が出場し、1勝1分け。</li> <li>・9月に長野県小海の閑静荘で夏合宿</li> </ul>
1959年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回練習</li> <li>・春、秋、紅白戦の合間に医学部との親善試合</li> </ul>	1984年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・慶早戦</li> <li>・9月に長野県小海の閑静荘で夏合宿</li> </ul>
1960年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回関東理工科学生柔道優勝大会参加</li> <li>（清水正一先生の推薦）主催：関東理工科学生柔道連盟</li> </ul>	1985年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第26回全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・9月に長野県小海の閑静荘で夏合宿</li> <li>・慶早戦</li> <li>・医学部柔道部対抗戦</li> </ul>
1961年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回関東理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・一橋大学、東大工学部と親善試合（清水正一先生の斡旋）</li> </ul>	1986年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第27回全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・9月に群馬県片品の尾瀬山荘で夏合宿</li> <li>・慶早戦</li> </ul>
1962年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回関東理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・一橋大学、東大工学部と親善試合</li> </ul>	1987年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第28回全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・慶早戦</li> </ul>
1963年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回関東理工科学生柔道優勝大会 第3位</li> <li>・山中湖山荘にて夏季合宿</li> <li>・一橋大学、東大工学部と親善試合</li> </ul>	1988年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春は早稲田、秋は日吉で慶早戦</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）参加</li> <li>・夏合宿を長野の閑静荘で実施</li> </ul>
1964年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回関東理工科学生柔道大会</li> <li>・一橋大学、東大工学部と親善試合（春・秋）</li> <li>・山中湖山荘にて夏季合宿</li> </ul>	1989年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春は早稲田、秋は日吉で慶早戦</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）参加</li> <li>・夏合宿を長野の閑静荘で実施</li> <li>・八方尾根にて冬合宿</li> </ul>
1965年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回関東理工科学生柔道優勝大会</li> <li>1回戦千葉工業大学</li> </ul>	1990年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春は早稲田、秋は日吉で慶早戦（春は勝利）</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）参加 ベスト8まで勝ち進む</li> <li>・夏合宿を長野の閑静荘で実施</li> </ul>
1966年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回関東理工科学生柔道優勝大会</li> </ul>	1991年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春は早稲田、秋は日吉で慶早戦</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）参加</li> <li>（敗者復活戦で2回戦まで進む）</li> <li>・夏合宿を長野の閑静荘で実施</li> </ul>
1967年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回関東理工科学生柔道優勝大会</li> </ul>	1992年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦 大将戦までもつれ見事勝利</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）参加</li> </ul>
1968年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回東日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>1回戦東京工業大学</li> <li>5.25 法政工学部戦 5-6で敗れる</li> <li>6.22 慶早戦（早稲田）3人残り早稲田勝ち</li> <li>6.23 医学部戦</li> <li>11.16 慶早戦（日吉）</li> </ul>	1993年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦</li> </ul>
1969年	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.7 法政工学部戦</li> <li>6.15 東日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>6.28 慶早戦（早稲田）</li> <li>11.8 慶早戦（三田） 勝利</li> </ul>	1994年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・合宿9月 河口湖</li> </ul>
1970年	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.6 法政工学部戦 点取り：2-4で負け</li> <li>勝抜き：法政5人残り勝ち</li> <li>6.14 東日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>1回戦 日大工学部 負け</li> <li>6.28 慶早戦（三田） 勝抜き：分け、点取り：6-6（内容差負）</li> <li>12.5慶早戦（三田） 勝抜き：1人残り勝ち、点取り：7-6勝利</li> </ul>	1995年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会1回戦敗退</li> <li>・合宿9月 河口湖</li> </ul>
1971年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3.1 日吉春期合宿</li> <li>6.5 法政戦 初めて勝利する</li> <li>6.13 東日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>1回戦 電通大 7-0勝ち</li> <li>2回戦 日大理工 1-6負け</li> <li>6.19 慶早戦（早稲田） 勝抜き：勝利</li> <li>8.3-10 山中湖夏期合宿</li> <li>11.13 慶早戦（日吉） 勝抜き：2人残り勝利、点取り：勝ち</li> </ul>	1996年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・合宿9月 河口湖</li> </ul>
1972年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3.25-31 伊東春期合宿</li> <li>5.20 東工大 結果不明</li> <li>6.11 全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>1回戦 芝工大 3-1 勝ち</li> <li>2回戦 日大理工 4-5 負け</li> <li>6.17 慶早戦（早稲田） 勝抜き：勝利</li> <li>8.15-25 前練習+山中湖夏期合宿</li> <li>11.12 工学部4校対抗戦主催（三田）</li> <li>（慶應、早稲田、法政、電機大）結果 第3位</li> <li>11.18 慶早戦（日吉）引き分け</li> <li>12.16 慶應工学部体育祭で柔道大会を主催</li> </ul>	1997年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・合宿9月 河口湖</li> </ul>
1973年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦、</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・夏合宿</li> </ul>	1998年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・合宿9月 九十九里</li> </ul>
1974年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦（全員参加の勝抜き戦：双方大将にて決戦、1本負け）</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・夏合宿（於：三重県阿田和）</li> </ul>	1999年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・合宿9月 千葉県千倉</li> </ul>
1975年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦、</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・夏合宿</li> </ul>	2000年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・六大学対抗戦</li> </ul>
1976年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対医学部練習試合（於 三田道場）[工学部の圧勝]</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（於 講道館）</li> <li>山口優勢勝ち、岩崎一本勝ち、北原一本負け、赤松一本負け</li> <li>・春 慶早戦（早稲田理工学部道場）</li> <li>・秋 慶早戦（慶應日吉道場）</li> </ul>	2001年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・六大学対抗戦</li> </ul>
1977年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・春 慶早戦（早稲田理工学部道場）</li> <li>・秋 慶早戦（慶應日吉道場）</li> </ul>	2002年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶早戦実施</li> <li>・六大学対抗戦</li> </ul>
1978年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対医学部練習試合（綱町道場）[工学部の圧勝]</li> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）</li> <li>・春 慶早戦（慶應日吉道場） [15人戦の勝ち抜きで、1人残して勝利]</li> <li>・秋 慶早戦（慶應日吉道場）</li> </ul>	2003年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八大学対抗戦</li> <li>・目黒大会</li> </ul>
1979年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会（講道館）</li> <li>・春 慶早戦（慶應日吉道場） [勝ち]</li> <li>・秋 慶早戦（慶應日吉道場） [近年稀にみる接戦。]</li> </ul>	2004年	
1980年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本理工科学生柔道優勝大会</li> <li>・春 慶早戦、10人戦の勝ち抜きで、2人残して早稲田勝ち（早稲田理工学部道場）</li> <li>・秋 慶早戦、12人戦の勝ち抜きで、1人残して早稲田勝ち（慶應日吉道場）</li> <li>・合宿は長野県の閑静荘</li> </ul>	2005年	6月26日 全日本理工科学生柔道優勝大会 優勝
		2006年	4月22日 慶應義塾大学理工学部体育会柔道部創部50周年記念式典開催
			6月25日 全日本理工科学生柔道優勝大会
		2007年	6月24日 全日本理工科学生柔道優勝大会
			11月24日 慶應義塾大学理工学部体育会06-06会 設立総会開催
		2008年	5月3日 H.P.開設
			6月29日 全日本理工科学生柔道優勝大会 ベスト6
			9月12～15日 夏合宿 千葉県上総興津（室山旅館）
		2009年	6月28日 全日本理工科学生柔道優勝大会 優勝
			9月11～14日 夏合宿
			千葉県大網白里町（タイヨースポーツセンター）
			9月29日 全日本理工科学生柔道優勝大会優勝祝勝会
			柔友会と共同開催
		2010年	5月2～3日 春合宿 山梨県南都留郡山中湖村
			6月27日 全日本理工科学生柔道優勝大会 準優勝
			9月17～19日 夏合宿 千葉県山武市（さんぶの森武道館）
		2011年	6月27日 全日本理工科学生柔道優勝大会 第3位
			9月15～18日 夏合宿 山梨県南都留郡山中湖村
			10月16日 早慶戦（日吉道場）4人残して早稲田勝ち
		2012年	5月3～4日 春合宿 群馬県利根郡片品村
			9月14～17日 夏合宿 千葉県南房総市
		2013年	5月3～4日 春合宿 長野県南佐久郡南牧村
			9月13～16日 夏合宿 千葉県南房総市